



浮田春曙



怪島奇松

19 亀山鳳水帖 平尾竹霞 一帖

大正四年（一九一五）

絹本着色

各二八・九×三九・二

丹波山地から京都の嵐山までつづく保津川（嵐山より下流は桂川）の渓谷は、保津峡、嵐峡とも呼ばれ、急流によって作り出された奇岩、奇勝が続く景勝地として知られる。この保津峡の様々な地点の景観を十二図に描いたのが本画帖である。作品名にある亀山とは、かつて御嵯峨、亀山両院の離宮のあった京都市右京区嵯峨にある山、ひいてはその一帯を指す言葉である。作者の平尾竹霞（八五六～一九三九）は、名を経真、字を明卿。丹波篠山に生まれ、十六歳から京都に出て、塩川文麟に学んだ後、田能村直入に師事した。師の直入とともに日本南画協会の創立に尽力した。直入の謹厳な画風を受け継ぎながら、本画帖において竹霞は文人的趣向で保津峡を中国の山水に見立てて描いている。画中に記された次のような各図の題がそれをよく示している。浮田春曙、千網暖翠、神瀬釣臺、怪島奇松、曲淵躑躅、龍門飛瀑、蓬萊初月、舟戸碧障、仙寰群書、雲洞石蓮、蕭寺霜楓、嵐峡暮雪。

画帖は、巻頭に宮内大臣土方久元による筆で「亀山鳳水」という墨書があり、巻末にも同じく土方によるこの地の景勝を詠った漢詩が記されている。大正四年（一九一五）に大礼を祝して作者より献上された。



曲淵躑躅



蓬莱初日



嵐峽暮雪

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzōkan